





\*:

## 2 トピック

\*:

●北海道における洋上風力発電基地港湾形成に向けた情報交換会を開催しました。

(北海道開発局 港湾空港部 港湾計画課)

2050年「ゼロカーボン北海道」実現の柱となる洋上風力発電施設の導入を促進するため、北海道における海洋再生可能エネルギー発電設備等拠点港湾（基地港湾）形成に向けた港湾管理者、発電事業者、関係行政機関による「北海道における洋上風力発電の基地港湾形成に向けた情報交換会」を北海道開発局主催にて、1月14日(金)に開催しました。

当日の情報交換会は対面とweb併用により開催し、9港湾管理者、8発電事業者を含む約60名が参加しました。

情報交換会では、まず国土交通省港湾局海洋・環境課、椋平課長補佐より洋上風力における基地港湾制度の概要・現況について報告をいただきました。

次に、港湾管理者より洋上風力発電資機材の取扱いが可能と想定される岸壁・ヤード状況等について報告をいただき、最後に発電事業者より洋上風力発電の設置を希望・想定する海域・場所、発電量や利用を希望する港湾、港湾施設の要求スペック等について報告をいただきました。

発電事業者の発表は機密が含まれることから、情報交換会の内容は非公表となりますが、今回の情報交換会を足がかりに、港湾管理者と発電事業者の議論が深まり、今後の北海道における洋上風力基地港湾形成が促進されることを期待します。



情報交換会の様子(対面・web 併用)

## ●北海道で初めての開催！苫小牧港カーボンニュートラルポート検討会

(北海道開発局 港湾空港部 港湾計画課)  
(苫小牧港管理組合 総務部 港湾政策室 政策推進課)

令和4年1月24日(月)、北海道開発局と苫小牧港管理組合は共同で事務局を運営し、「第1回苫小牧港カーボンニュートラルポート検討会」を開催しました。新型コロナウイルス感染症拡大防止のためWEB方式にて実施し、30の関係団体、民間事業者及び関係行政機関等の皆様に参加いただきました。

はじめに、苫小牧港管理組合管理者である岩倉博文苫小牧市長より、「道内の港湾では初めての動きとなるため重要な検討会になると考えており、皆様とともに、しっかりとCNP形成計画策定のための検討会にしたい。」と、開会の挨拶がありました。続いて事務局より検討会の開催趣旨と開催要領が説明されました。

また、西園北海道開発局港湾空港部港湾計画課長より、「国土交通省におけるカーボンニュートラルポート形成に向けた取組について」の説明があり、引き続き、苫小牧市産業経済部港湾・企業振興課の力山課長より、現在進められている苫小牧市をフィールドとしたNEDO事業の取り組みについて紹介がありました。

議事の最後に事務局より、今後の進め方として、苫小牧港CNP形成計画の策定期間について、今回を含め、検討会を5回程度開催した上で、令和5年3月策定を目指すこと、計画策定後は進捗管理等の計画のフォローアップを実施する予定であることの説明とあわせて、参加する皆様へ今後のヒアリング・アンケートへのご協力や、検討会における積極的なご意見、ご発言への協力をお願いがありました。

終わりに、魚住北海道開発局港湾空港部長(代理:西園港湾計画課長)より、「北海道開発局も港湾管理者によるCNP形成計画の策定をしっかりとサポートしていきたい。」との挨拶で閉会しました。



開会ご挨拶（岩倉苫小牧市長）

●基幹的広域防災拠点においてヘリコプター夜間離着陸訓練を実施しました

(関東地方整備局 港湾空港部)

2月3日(木)、川崎市にある東扇島地区基幹的広域防災拠点(以下、「東扇島防災拠点」という。)において、首都直下地震を想定したヘリコプター夜間離着陸訓練を実施しました。

本訓練は、東扇島防災拠点に所在するヘリポートを利用し、夜間での離発着を行うことで、緊急物資や人員の輸送に重要な役割を果たす各関係機関のヘリコプターの災害対応能力向上を目的として行われ、5機関1団体が参加しました。

例年、東扇島防災拠点の応急復旧並びに緊急物資輸送活動体制の構築にかかる必要な情報の収集及び伝達方法について検証を行う管理運営訓練を併せて実施していますが、新型コロナウイルスの感染拡大により、今年度はヘリコプターの離着陸訓練のみ実施となりました。

今回の訓練では、船舶による活動要員参集訓練や、ヘリポートを24時間体制で運用することを想定した航空灯火設置訓練、関係機関のヘリコプターによる夜間離着陸訓練を実施しました。



●令和3年度阪神港セミナーを開催

(近畿地方整備局 港湾空港部 クルーズ振興・物流企画室)

阪神国際港湾戦略事務局ポートセールス部会(阪神国際港湾株式会社、近畿地方整備局、神戸市港湾局、大阪港湾局で構成)は、国際コンテナ戦略港湾である「阪神港」を広く発信し、利用を促進するためのポートセールスの一環として「令和3年度阪神港セミナー」を令和3年12月16日(木)に神戸市内で開催し、オンラインでも同時配信を行いました。

セミナーでは近畿地方整備局から『これまでの国際コンテナ戦略港湾施策の取組状況や脱炭素の取組状況』を、阪神国際港湾株式会社から『荷主・物流事業者向けの集荷支援事業の取組状況』をそれぞれ紹介し、近年関心の高まっている環境問題への取組として、丸紅株式会社から『関西圏の水素需給見通しとカーボンニュートラルポート形成に向けた調査概要』について講演をいただきました。

当日は会場で62名、オンラインで162名の合計224名に参加いただきましたが、今後も阪神港の認知度を高めるため様々な取組状況を積極的に発信し、阪神港の積極的な活用を呼びかけていきます。



2年ぶりに実地開催となった会場の様子

## ●農産物等の輸送促進に向けた海上混載輸送試験を実施

(近畿地方整備局 港湾空港部 クルーズ振興・物流企画室)

近畿地方整備局では、従来航空機で輸送を行っていた、温度・衛生管理の必要な小口の農産物等を対象にした海上輸送の実証試験等を通じて、阪神港を利用した農産物等の輸出促進に取り組んでいます。

この度、通年で安定した物量が輸出されている大口貨物と、単独では十分な物流が確保できず輸出されにくくなっている小口貨物とを混載し、小口貨物の梱包方法の有効性や安定的な輸出の可能性等を検証する実証試験を令和3年12月17日(金)(以下、第1回試験)と令和4年1月14日(金)(以下、第2回試験)にそれぞれ実施しました。

第1回試験では大阪港から香港港に向けて、香港でニーズの高い「みかん、メロン、キウイ、シャインマスカット、柿」といった小口貨物と大口貨物である「リンゴ」を1本のコンテナに混載して輸出し、第2回試験では輸出港を大阪港から神戸港へ変更し、小口貨物に「イチゴ」を追加して実施しました。

今後、計測した輸送中の温度・湿度・衝撃・輸送後の品質変化・リードタイム・コスト等の分析を行い、今回の輸送試験により海上小口混載輸送の有効性が確認されれば、航空輸送に比べ低コストでの輸出が可能となり、コールドチェーン確保の施設整備を併せることで、我が国全体の農産物等の輸出拡大が期待できます。



